

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和5年度 第2回草津市社会教育委員会議
日 時	自 13時30分 令和5年9月25日(月) 至 15時00分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：山口委員長、長橋副委員長、藤澤委員、北川委員、内田委員、 奥野委員、山元委員、澤村委員、矢野委員、中瀬委員、 出呂町委員、佐藤委員、福田委員 事務局：藤田教育長、増田部長、岸本総括副部長、二井副部長 生涯学習課 古川課長、廣政課長補佐、河合主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有（別添のとおり） <input type="checkbox"/> 無

1. 【教育長挨拶】

2. 議事

1) 前回の会議の振り返りについて

資料1に基づき、事務局説明

【委員長】

委員の皆様からは、ただいまの内容について修正追加等、ご意見等ありましたらぜひお願いいたします。お気づきの点や、解釈の違いなどがあれば、お教えください。

簡潔にまとめますと、前回は今年度の講座をどう具体化するか、運営面と内容面への工夫の手がかりを探りました。その内容に基づいて事務局の皆さんには今年度の講座の原案を作成いただきました。

それが議事の2-2です。令和5年度読書ボランティア人材養成講座について、そしてチラシへの掲載事項の検討について2点の説明をお願いいたします。

【事務局】

では続きまして、議事の2-2に移っていききたいと思います。資料2-1をまずご覧いただきたいと思います。

こちらの資料は、今年度の読書ボランティア人材養成講座について、記載をさせていた

だいております。

開催の目的といたしましては、絵本の読み聞かせを題材として、読書ボランティア人材養成講座を開催し、課題である若者の参加者をどのように増やせばよいか、修了者をどのように活動につなげればよいかについて検証を行うことで、本市において地域で活躍するボランティア人材の発掘育成に寄与することを目的といたします。

なお、若者の定義といたしましては、草津市子ども若者計画により、18歳以上40歳未満と位置付けておりますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

令和4年度は、若者、とりわけ大学生の参加者を取り込むため、休日に実施するなどの工夫を施しましたが、結果として大学生の参加者の増には繋がらなかったところです。今年度は主なターゲットを子育て世代に変更し、開催日に数種類のパターンを用意して比較や検証を行いたいと考えております。

今回お示しいたしました資料2-1にございます表ですが、左側に令和4年度の講座の内容、開催内容でございます。

資料には委員の皆様からいただきましたご意見、ご意見を踏まえた令和5年度の講座の改良案、期待する効果を示しております。

日時でございますが、令和4年度は休日の午前中に開催したものを、今年度は休日の午前中及び平日の午前中、夜間の計3回開催し、子育て世代が参加しやすいパターンを検証したいと考えております。

具体的な日時ですが、10月27日金曜日、11月10日金曜日の午前中、時間としてはチラシにも掲載しており、いずれの日も10時から11時半と1時間半でございます。

次に、10月27日金曜日、10月10日金曜日と日は同じですけれども、夜間のコースで19時から20時30分という時間でございます。

また、休日10月29日の日曜日、11月10日の日曜日の午前10時から11時半と、3コース用意をしております。

期待する効果としましては、休日と平日および午前中と夜間で開催することで、若い世代の参加者が増えることを期待しております。

また参加しやすい日時の検証も併せて行いたいと考えています。

次に会場でございますが、以前は図書館のみで開催をしておりましたが、今回は南草津駅前の市民交流プラザ（フェリエ南草津）にて開催をしたいと考えており、場所を南草津駅近辺に絞り検証をしたいと考えております。

次に定員でございますが、30名であったものを、それぞれ10名の定員といたしまして、一人一人に目の行き届きやすい講座とすることで、参加者の満足度を向上させたいと考えております。

回数でございますが、昨年度は1講座3回の回数でしたが、2回なら行けるが3回は行けないとの参加者の声もございまして、内容は変えずに2回で行い、参加しやすくなることを期待しております。

次に広報及びチラシでございますが、昨年度は市ホームページ、広報くさつ、記者提供にて周知をしておりましたが、今年度は前回会議のご意見をもとに、SNSの活用及びチラシを作成し、子育て世代が利用する場所に広く配布することで、本講座の認知度を高めたいと考えております。

チラシの内容につきましては、つきましてはお手元のチラシのカラー刷りの案をご覧くださいですが、チラシの案の方には日時場所の他に委員の皆様からいただきましたご意見をもとに、受講のメリット、今回は子育て世代をターゲットとさせていただきたいと考えておりますことから、託児のあることであるとか、受講の動機付けの一助になることを期待いたしまして、今回の講座受講者には、今後の読み聞かせの活動に使用できる絵本を1冊プレゼントしたいと考えており、その旨を掲載しております。

申し込み方法につきましては、ご意見いただきましたQRコードにより、市の電子申請システムに繋がるような形で可能とし、子育て世代が申し込みをしやすくすることで参加者の増を期待しております。

こちらのチラシは現段階では案でございますので、また改良点などございましたら、ご意見いただけますと幸いです。

そして、資料2-1の下の方の受講後という欄ですけれども、昨年度より修了者のLINEグループを作り、交流を図っていただいたり、各種イベントに参加いただいたり、活動が広がりつつありますので、今後さらに横の繋がりを構築し、様々な活動につなげ、継続できる仕組みにつきましてもご検討いただけますと幸いに存じます。

次に資料2-2をご覧ください。委員の皆様からのご意見を掲載しております。

チラシへの掲載検討事項についてということで、各委員の意見より参加メリットについて下線を引いたご意見をもとに、チラシへと掲載をさせていただいております。

②の受講者の声につきましては令和4年度の講座を受講した方のアンケートから掲載しております。裏面をご覧ください。キャッチフレーズ・愛称についてご意見いただきましたものを記載しております。

前回の会議においてこの講座を受講したら、ボランティアを必ずしなければならなくなるのかもという、そういう印象も受けるとの御意見もあり、そのように考える方もいらっしゃるのではないかとご意見もありまして、名称をもう少し柔らかくしてみれば、とご意見も頂戴していたところです。

事務局といたしまして若い世代、今回は子育て世代をどうすれば取り込めるかの検証を行いたいと考えておりまして、楽しそうなイメージや、自身のスキル向上に役立つ講座であること、また学びに繋がるといったことを連想させるような名前となりますと、大変ありがたいと考えております。

名称を変更するかそれとも現在の名称を残しつつ、副題として何か別のキャッチフレーズを採用するかつきましても本日ご検討いただけますと、幸いに存じます。よろしく願いいたします。

【委員長】

事務局から令和5年度の講座の開催方法及びチラシへの記載、内容についての説明がありました。それぞれ内容について皆様からご意見いただきたいのですが、今日はこちらがメインの議題でもあります。そこで、こうした審議会としては異例かもしれませんが、お2人ずつで意見交換をお願いいたします。

突然のお願いですが、7分間、お隣同士の方で語り合ってみてください。あくまで意見交換で、2人で一つの案をまとめる、といった趣旨ではありませんので、まずはご自身の意見を率直にお示しいただければ幸いです。

<7分経過後>

7分が経過いたしました。さて、意見交換をいただいて、何かご感想、ご意見、ご提案、あるいは疑問などが明らかになりましたら、ぜひお示しく下さいませ。

【奥野委員】

質問ですけど、講座の回数は2回で総時間は減っていますが、内容は昨年と一緒なのかどうか。それとも昨年と同じ養成講座なのかというのをちょっとお聞かせいただければ。

【二井館長】

今のご質問ですけども、確かに時間数は減っていますが、開催回数を3回に分け、1回30人から、10人としております。その分、一人一人にかかる時間は変わらずに、読み聞かせの仕方とか、声の出し方とか絵本のめくり方とか技術的な部分は、時間的には十分かなというふうに考えておりますので、その辺はご心配ないようにしたいと思っております。

また1回目に講義、2回目にワークショップ、3回目に発表という形で行っていましたが、1回目に講義とワークショップを行い、職員も2人体制で1回目は臨みますし、2回目の発表も2人体制で臨みますので、そういう面でもフォローはできます。

【委員長】

回数は減るものの、3コースにしたことで1回あたりが10名と人数が減ります。そのため各回の内容が濃密になり、必要な事柄に対応可能とのことですね。

【奥野委員】

一人一人にかけられる時間が増えることで対応可能ということですね、わかりました。それに基づいてなんですけど。昨年の受講生は今年も受けることができますか。

【委員長】

そうですね。受講機会が拡大しますので、初回の方優先でと言いたいところですが、去年までの受講生の再受講について、ルールは特に定められていように思われます。

【事務局】

今のところ、新規で来られる方を想定はしてはいたのですがけれども、逆に過去に受けられた方も、受け入れた方が、講座としてふさわしくなりますでしょうか。

【委員長】

ちなみに昨年度は過去の受講生で社会教育委員も兼務された方々が見学に来られ、ささやかながら運営のサポートもいただきました。再受講が可能か不可能かのルールづくりだけでなく、過去の受講生でもう1回受講したいという意欲的な方には、運営を補佐いただくなどもありうるかもしれません。

【奥野委員】

目的が何ですかねっていう話です。そこが策定されてないのであれば、門戸を広げてもいいのかなと。その場合10名で区切るのではなくて10名程度とかいうふうに内田委員と一緒にしゃべったのですけども、10名程度にして、そこも広げるようにして、もし1、2名増えても区切らず、受け入れられるような体制にしたほうがいいのかなと思いました。部屋の広さが許せば、ですけど。

【内田委員】

私も輝☆業塾など運営させていただいていますが、この申し込み者多数の場合は抽選っていうのは結構ハードルが高く感じられます。本当に抽選するのかどうかちょっとわからないのですけれども、何人程度、にとどめておいて、20人とか30人とかとかばんばん申し込みされたら、例えば回数を増やすとかいう形で対応するとか、今からこう書いてしまうと、なんかちょっと申し込みされる方のハードルが高くなるのかなと。去年も行った人が今年もっていうと機会の均等性から言ってもちょっとどうなのかなと思いますし、あまりここで書かなくてもいいのかって、10人程度ぐらいで部屋の方も、小会議室が対応できないのであれば部屋を変えて対応するぐらいの柔軟性を持ってやられた方がいいのかなって思いました。あと無料って書いたほうがいいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。柔軟にそういう方向で検討を再度させていただきます。

【委員長】

機会の均等かつ平等公平な情報提供というところでいくと、締め切りの期日があってそこまで入れなかった人のことも思うと、応募者多数の場合は、締め切ることがありますとかっていう免責事項が何かあるのかもしれない。

皆さんからのご意見の中で、検討していきましょう。いかがですか。

【副委員長】

このチラシの表、この表記に関して、活動の様子を裏側に掲載していますが、例えば掲示板に貼るとしたら、やっぱり表面あたりにそういう活動があった方が、どういう感じなのかなとか、どういう活動を想定したボランティアの人材育成なのかわかりやすいというのが1点と、平日コースとか、このABCの3つのコースがあって、2回あるっていうふうに書いてありますけれども、この講座2回の各回の内容、どんなものなのかテーマがあった方が、また、どういう話が聞けるのかというのがあれば、イメージしやすいのではないのかなというふうに思いました。

【委員長】

先ほどの奥野さんのご指摘にも繋がるお話で、何をやる講座かわからないということですね。2回の内容を書く、また写真で会場の雰囲気と内容がわかるように伝える、といったご提案と受けとめました。

【内田委員】

ちょっとよろしいですか。数限りなく、チラシを作ってきた経験があるところで言うのですが、この草津市市民交流プラザ（フェリエ南草津）っていうのが6回も書いてあります。これ全部同じ場所じゃないですか。1回でいいと思います。その部分を内容などのスペースに変えていく。スペースがちょっともったいない感じがします。

【澤村委員】

私もチラシを作ってきましたので、幾つかちょっと思ったところがあったのでちょっと質問を入れながらになります。まずメールアドレスが書かれていません。

それと申し込み方法の下記QRコードって書いてあり、詳しくは裏面へとあり、右側にQRコードが入るようなので、もし右側にQRコードが入るのでしたら右記QRコードとか、ちょっと違うかなというところです。

あとは、タイトルが、コースの説明がすごく大きく比率を占めているので、タイトルがそもそも何の講座なのかがちょっとわかりにくいと思いました。

いろいろ託児ありますとか、受講者の声とか書かれていますが、そういうところも必要ですが、もっと必要なところに、どういう講座でいつ実施しているというところが一番よくわかるように書かれた方がいいかなと感じました。

【山元委員】

1点ね、すごく面白くてこの読書ボランティアという人材養成講座っていう、これ何回ぐらい今まで実施されていますか。

【事務局】

過去2回です。

【山元委員】

ちょっと気になったのはね、とても面白くて過年度の受講生にも門戸を開いてはどうかということですよ。

うちも自然学校を開いていまして、今年で2期目に入って、1期2期っていう形で1期生の方が2期生の方を支援していくシステムを作っています。

そうなってくると、このボランティアの養成講座っていうのは、2回実施で今年度が3期目の養成講座になりますよね。例えば1期生の方が2期生を支援していくっていう形でね、要は我々一番信用できるのはやっぱり友人ですよ。これがどんどん広がっていきますから、そういう形でこの養成講座も含めて進めていくというのが、一つの方法ではないかというふうに考えています。方法論としてはね、そういう方法もってはどうかかなっていうことで一つ提案したいと思います。

デザインに関してちょっと気になったのは、講座修了すると絵本1冊プレゼントってあ

るじゃないですか。これをもっと大きく書いてもいいのかなと。1冊プレゼントするよって明確にやっぱり出すべきです。あとデザインもちょっと何とかならないかな。

【北川委員】

託児の人数が、もしたくさん希望があった場合には対応可能ですか。

【事務局】

できる限り対応はしたいのですが、託児の会社さんと、相談の上、何人の子どもにつき何人の保育士さんが必要となってきますので、無限に受け入れてというのが難しいと思います。どれだけの託児が集まるか。託児会社と相談をして、できる限り受け入れたいなどというふうには考えてはおります。

【委員長】

会社さんに対応いただけるのならいいのですが、託児を申し込んだのに対応不可能となつてはいけないので、もう一度確認願います。その際、申し込み時に提供いただくのは人数と年齢だけでいいのかも確認ください。

私の経験では、申し込み後に実際託児をいただく会社さんからアレルギーやトイレの対応などについてやりとりをすることありました。まずいつまでに申し込みがあるのか、キャンセルはいつまで対応できるか、申し込み後に会社から直接情報収集されるのか市役所がやりとりされるのかなど、全体のフローを確認願います。

【事務局】

ありがとうございます。ちょっと託児に関して期日等を再検討したいと思います。

【北川委員】

質問も兼ねてちょっとお尋ねします。コース3コースありますよね。

私が参加者だった場合ですけれども、例えば質問が来るかなという想定で、ちょっと今、言わせていただいていますけれども、例えば平日コースの10月27日は行けますけれどももう1日の11月10日行けませんと、その代わり10月27日の夜なら行けますっていう方もいらっしゃるかと思います。そういった場合はどうでしょうか。

そういうコースになった場合は、必ず今私が言ったような人がいるのですよ。

だからその時はどういうふうに対応するのかっていうことが1点と、先ほど出ていた、1つ2つへの案として、再受講もありかなっていうふうに考えたりもします。

もう1回勉強したいわっていう方のために、再受講はどうかと思うのですけれども。もし再受講がなかったら、そのあとの勉強会っていう形で、復習なり意見交換ができるので、勉強会があれば、再受講はなくてもいいかなと思ったりもします。

それとですね、子育て世代をターゲットということですが、子どもはいないけれども、結婚したばかりで、夫婦ともに参加したいっておっしゃる方もいらっしゃったら私は一番いいかなと思うのですけれども、そういった方々がもしいらっしゃったら、この絵本1冊プレゼントは、それぞれ夫婦でも1冊ずつプレゼントということでしょうか？

【委員長】

「各コースとも内容は一緒です」と示せば、確かに「Aの1回目とCの2回目でいいですか」とコース横断の申し込みが来るかもしれませんね。人数の管理で工夫が必要ですが、むしろ現場対応で柔軟に受け入れるかなど、運営面から整理するといかがですか。

【事務局】

絵本プレゼントについては、受講者1名につき1冊と考えておりますので、1家族1冊というふうには考えてはいたしません。

再受講については、柔軟に考えたいなと思っておりますので、もう一度検討させてもらって、事務局内で詰めたと思います。

あと最後のコースの組み合わせですが、委員長もおっしゃっていただいた通り人数管理が難しくなってしまう面もありますので、正直今おっしゃっていただくところまでは想定はしていませんでした。もう一度図書館さんの方とも相談いたします。

【委員長】

もう一度確認いたしますと、現時点ではコースを横断した受付は前提にしていなくてのことです。ただし、図書館との相談を行うものの、仮にコースを横断することになるような柔軟な対応を希望する問い合わせがあったときにはどう対応するかの方針を決めておく必要がありますね。

基本的には横断受講は受けつけない場合も、それぞれのご都合などもかんがみて「できる限り調整します」ということができるかもしれません。その場合、一旦ご希望伺っていただいて、うまく対応いただければと期待しています。他いかがでしょう。

【矢野委員】

今の横断に関係してというか、今、希望するコース見ていると、ABCどれか1つみたいな感じのイメージを受けたのですが、例えばAとCがいいとか2種類もし選べるのができた場合をチラシに記載したら、空いている方に優先的に入れるのかわかんないですけどその対応というのはどういうふうになるのかなって質問ですけど。

【委員長】

申し込みの際して、ABCのコースごとに区切っているものを、1回目「講座とワークショップ」と「2回目のワークショップと発表」、それぞれの日を希望するかをチェック方式にする、といった方法を提案いただいたと、と受け止めました。ABCの3つの入口ではなくて1回目はどの日で2回目はどの日という具合です。10人の定員管理とはいえコース選択での受付よりは複雑になりますが、申し込む側はインターネットのフォームで言えばプルダウンメニューで混乱なくできるでしょうね。

【矢野委員】

僕の受けた印象ですが、例えば、3つの中からどれか1つ、コースを選ぶみたいな感じだったのでそういうことですよ。誰かが例えばBも行けるしCも行けるっていう場合は両方とも記載していいのかとかです。希望するコースはAかBかCか。

【委員長】

なるほど、希望は1個だけなのか全部書くのかということのご質問でした。希望にかなわないときがありますので、AとBとCでしたらBに、そういうことですね。

【北川委員】

私かね、先ほどそれなぜお尋ねしたかという、例えば私ならAコースならこれに決めてもらえないと困りますって言われた場合でしたらね、1日はいけるけども1日はいけないとなった場合、コースを変えてもらえないのなら、もう今回は諦めますっていうふうなる。もう今年やめとこうとかね、私の場合ならそうになってしまうのですよ。

だから私の希望を言うならば、ふりかえをしていただけたら何とか、ちょっとこの気持ち、養成講座に行きたいという気持ちがしぼまずに済むかなという、その意欲の減退を、それを心配するのです。

できたら、意欲ある方になるべくその門戸を開けるのも一つかなというふうに思ったので、やっぱりこういうふうに決めるというか選べる形式、それもありかなというふうに私は思ったりもします。

【委員長】

矢野委員はAかBかCかどれか全部エントリーしたらいいという話ですよ。

北川委員は柔軟に、1回目はここで2回目はここですのでちょっと若干ポイントは違いますけど。

ただこのABCで固定した応募だけですかっていうところが、一応共通する部分で、矢野委員の場合は第1希望第3希望、あるいは重複受講もできるかっていうところまで含めた問いかけだと思いますけど、二井さんは何かありますか。

【二井館長】

そもそもなんですけど、こちら「広報くさつ」に出されるってことですが、10月1日付で出される予定ですか。

【委員長】

既に原稿が確定していて、そこにコースが記載されていたら、ここで枠組み全体を変えることは最早できませんね。申し込み方法の工夫で対応するしかありません。

【事務局】

おっしゃっていただいた通り広報で周知を行いますので、日時は固定をさせていただいているところです。

確かに想定の中では、もうこのコース2日間来ていただく方をそれぞれ10名という形で募集をかけたいと思っていたのですが、柔軟に、例えば1回目はA、2回目がBとか、こういうご意見もいただいているところでございますので、どこまでできるかというところもございますが、受け付けの段階で、どこまで柔軟に対応できるかっていうのは、事務局の方で検討したいなというふうに思います。

【委員長】

二井館長いかがですか。

【二井館長】

講師として図書館の方で司書を派遣するわけですが、やはりこれ、最初のこの資料2-1に目的として、若者の参加者をどのように運営すればよいかということで、事務局の方で、平日コースだったら子育ての方が来てくれるかな、夜間だったら、仕事帰りに来てくれるかな。休日だったら休みの日に参加してくれるかな、という3コースだったと思うのですが、今のご意見を踏まえまして、検証を行うということが目的に入っているのです。北川委員とか矢野委員とかおっしゃったような場合も、その検証にあたりすべきじゃないかなというふうに個人的には思いますので、どの程度の方が固定になるのか逆に、BCとかABとかBCとかバラバラなのかっていうのも、この学びを通じたボランティア人材発掘育成の大きな検証になるかなと思うので柔軟に対応できる場所は対応したらいいかなというふうに、個人的にはそう思っております。

【委員長】

今一度、矢野委員からの問いかけを確認いたしますと、申し込み時に記す希望は1個だけか、ということでした。希望するコースは「お1人様1回のみ選択」か、第1希望から第3希望まで順位づけして書いていいのか、そもそも全部マルで出しているのか、ということですね。

【内田委員】

ちょっとよろしいですか。託児の欄が寂しいので、例えば新設したのであれば、新設しましたとか、自己実現・社会貢献のところも、同じページに同じ言葉が2つあるのですよね。だから、例えば就活にも役立つとか何かもっと違う内容で、あとちょっと男女共同参画の視点から言うと、赤ちゃんのいるお母さんの反対側は男の人とも取れるけど何かおばあちゃんにも取れるかという気がして、若者っていうのであれば、もっと学生っぽい例えば男の子みたいな属性にするとか、若い人を待っているよっていうメッセージをもうちょっと訴求していかないと、何とでもとれるっていう感じがします。

【委員長】

説明文・案内文のところ、多くの方に参加しやすくしたので、このように応募ください、といったことが伝わると思います。例えば、「草津市や草津市子ども読書活動推進計画に基づき、生涯学習課が講座やってきました。今年で3回目です。幅広く受講していただくために、今回は3コース、そして柔軟な時間設定で展開していきます。多くの方々の年齢、性別問わず幅広い方々にご参加いただきます。奮ってご参加ください。」などと前文のところであれば、受け取る側の印象は違って来るでしょう。

【中瀬委員】

もう皆さんたくさんチラシの部分については、ご意見が出たのでなかなか全部入れるのが難しいと思いながらお聞きしていたのですが、僕が思ったのは皆さんとかぶっているところもたくさんあったのですが、表面の右側に、講座の詳細はこちらっていうことでQRコードがありますので、このチラシで完結させるようなものにされるのか。

詳しい中身はQRコードの先に行かれるのであれば、チラシそのものはもうちょっとキヤッチーな感じにして、皆さん言われている削る部分をもう少し作ってもいいのかなというふうに思ったりはします。

【佐藤委員】

ちょっと私はチラシを作ったりしたことはないのですが、本当に一般的な意見を福田委員と一緒に言っていたのですけど。

絵本1冊プレゼントって書いてあるのですが、どういう絵本もらえるのかなって本当に気になりまして、本当言ったらこうすごくいいのも想像しますし、小さめな絵本なのかなとかもやっぱり思ってしまうので、何冊かって選ぶような感じなのかわからないのですが、ちょっとそれを載せてしまうとどうなのかなと思います。

ちょっとすごくどんな本だろうねっていうのをまず思いました。

あと時間帯3つあるのですけども平日コースと休日コースは、お母さん若いお母さん、夜間コースは、やっぱりお勤めの方とか用の時間なのかなと。夜間コースは終わるのが8時半なのでお子さん小さいと、もう寝かしつけの時間帯になってしまっているのです、40代までの若い世代、ターゲットって言われているので3種類あるのはいいかなと思ったのと、あと一つ、多分10月末なのでハロウィーンのイベントもいろんなところであるので、休日コースの10月29日の日曜日がすごく気になって、いろんなイベントがあると、お母さん早くに英会話教室のハロウィーンとか予定入れちゃうので、ここに人集まるかな、大丈夫かなぐらいの、本当一般的な意見で申し訳ないです。

【出呂町委員】

本当に皆さん思ったことかぶっているのですけど、私もチラシ作って講座とか自分のサロンやっているのです、私も10月1日に広報くさつと同時に配布する、学校の配布するものがあるのですけど。今、こういうチラシってすごいカラフルでかわいいのですけど、私はもう、内容は皆さんおっしゃった通りだと思うけど、見た目がすごく食いつく飛びつきにくくって、山本委員もおっしゃいましたけどデザインもちょっと考えたほうがいいかなというのがあるって、イラストは著作権とかもいろいろあるので、使えるイラストとかいろいろあるのでそこはやっぱり難しいと思うのですけど、本当に、目を引きやすいような感じの「広報くさつ」に本当に最小限で募るみたいですが、実際配って啓発するのであればもうちょっと、人の目を引きつけやすいような感じの、多分、今すごいみんなそれぞれの講座カラフルに作っておられるので、そこをもうちょっと検討していただけたらいいなと思いました。

【委員長】

事務局で頑張ってアレンジしていただいて、こんな点をこうしたらいいのではないかとという見立てをいただければ、積極的に反映いただけますのでいかがでしょう。

【山元委員】

せっかくのこの読者ボランティア、これ先ほど事務局にお聞きしたら3期目に入ってい

る。そういう長いその積み重ねみたいなのは、チラシに記載する必要があると私は思った。そのあたり工夫はお願いしたいなということ、要はこの講座っての養成講座だよっていうのをもう少し大きく。チラシを持った瞬間にね、なんだろうってもらったときに、読書ボランティアの養成講座だ、しかもそれが3期4期5期6期続いているものだっていう認識はもう目で確認したいですね、そういうデザインを最低限、お願いしたいと思います。あとはもうデザイン的なことは、ほぼ決まっているところもあるし、基本的に先ほど澤村委員がおっしゃったように、広報出すよっていうことですので、もうほぼデザインは決まっているはず。そのあたりとやかく言っても仕方がないので、重点ポイントだけちょっとこの委員会でね、決めていけばいいなと思っています。

【委員長】

その点でキャッチフレーズはまだ皆さんから本日は特にご意見をいただいております。届く言葉、響く言葉について、ご意見いかがでしょうか。

事前に伺ったご意見を資料2-2にまとめていただきました。皆さんからいただいたこのご意見の中に、この講座に根差すメッセージがあると思われ。育ちやすいまちにしていくための担い手に、自分のお子さんにもっと本を通じたコミュニケーションの力を豊かに、といった具合です。もちろんご自身のお子さんだけでなく、みんなで絵本の世界に触れて物事についての物の見方を深めよう、といった意味もあるでしょう。

そもそも多様な意義が整理された上で読書推進計画も作られています。それらを反映した人材養成講座で、どんな人になって欲しいのか。本を読む技術が学べる、自己実現・社会貢献にもなるということは何か、山元委員のご意見のとおり、講座を体現するワンフレーズが定められるといいのですが、いかがでしょうか。

【福田委員】

これちょっと質問ですけど、若い世代もこれは、ターゲットにされていますか。

一応チラシ、今ぱっとこれ見ちゃうと、あんまりなんか学生、本当に呼ばれているのかなっていうちょっとそう思っちゃったので。そうなるをやっぱキャッチフレーズってのが結構重要になってくるなと思うので、私も去年、1回参加させてもらったのですが、そうですねキャッチフレーズならちょっと、具体的な言葉は今ぱっと思いつかないのですが、絵本1つプレゼントそういうのはやっぱり嬉しいのですが、どっちかっていうと学生が多分読書ボランティアに参加する、多分理由みたいなのがあって多分その一つに、自分のためになるとか、社会貢献とかそれこそ後は、ここに書いてある自己実現とか、どっちかという皆自分のとか、これからの未来に対して前向きな、キャッチフレーズがあると参加しようかなと思うので、親子世代と多分ちょっと違うのですが、もしその若者世代に言葉をかけてあげるといふ形なら、将来に向けて前向きなワードを取り入れるといいかなと思います。

【藤澤委員長】

いろんなご意見を聞かしていただいて、結局、ボランティアというふうなことの層を広

げていこうというふうな、そんな意味合いもあると思うので、目的意識持ってこれをやってみようというふうな方も当然いらっしゃると思うのですけれども、限られた時間の中で、そこを有効活用しながら、自分の幅を広げたいであるとか、そういうふうなことってどうか、一歩ちょっとやってみませんかというふうな、迷っておられる方がいたら、そういう方にもひとつチャレンジだっているというふうな、そういうふうな意味合いのキャッチフレーズちょっとどんな言葉がいいか今出てこないですけれども、何かこう引き込むような、そんなキャッチフレーズがあったら、前進してみようかなってというふうなこと等に繋がっていくのかなと考えさせていただきました。

【委員長】

となると「本から始める語りが繋ぐ私と社会」、読書ボランティア人材養成講座、という具合でしょうか。今の二つをつなぐとそんな表現になります。

【奥野委員】

福田委員がおっしゃったように自己実現とか社会貢献って私の書いた意見の話なので、そのあたりをちょっと含めて欲しいなっているのはもともと持っていたのですが、例えば、意見のところにとっか書いてあったと思うのですが、読み聞かせには技術があるのをご存知ですかって意見書いてくださった方がいて、そういうその技術会得ですよってというのがそのまま社会貢献が自己実現に繋がるっていうのを、具体化すればありがたいのかなと思って今ちょっと1個考えたのですが、しゃべっているうち飛んでしまったので、ちょっと思い出せない、時間がかかるのでちょっと待っていただきたいです。これ今日中に決めないと話にならないのですよね。これはもう変える方向で話すので大丈夫ですか。

【事務局】

読書ボランティア人材養成講座そのものを変えるか、もしくは残して副題的につけるかっていう案が以前あったかなと。養成講座っていうところは、一定この講座のタイトルなので、何かこう副題的なものがあればと思っています。おっしゃっていただいたようにイメージを膨らませられるような、これを受けたらこんな自分になれる。そのきっかけになるのかなってというような、楽しみになるような何かキャッチフレーズがあるとすごくいいなと思っています。

【奥野委員】

ありがとうございます。そしたらキャッチフレーズが副題で勝負ってことですよね。なんかその個人的な例えばですけどその人に上手に、本を読んでみませんかというところがもう何かそのままダイレクトに来るのかなと思ったのでちょっと多分感覚が、違うのでもう一任して何かそういうたぐいのキャッチフレーズ入れてもらったら、いいかなと思います。

【山元委員】

資料2-2ってこれはいつ作成されたものですか。このチラシ案です。講座名キャッチ

フレーズについて各委員からのご意見よりっていうふうになっていますが、これはこの資料はいつ作られたのですか。

【事務局】

各委員から7月末をめどにご意見をちょうだいいたしましたので、8月上旬にはこういう形でまとめています。

【山元委員】

これ自体は非常に面白い資料で、もう例えば絵本で心のかけ橋をかけようという一つのキャッチフレーズですよ、向こうなんか100%このフレーズそのままですよ。

これだけピックアップされているわけですから、こういったものを委員の責任で選択して賛成して持っていったらどうだろうと私は思います。私はこの中でこのように心のかけ橋をかけようなんかが一番いいと思い、そういった意味でちょっと提案だけします。

【委員長】

今一度、資料2-2をご覧ください。そこにある「絵本で心のかけ橋をかけよう」がいいのではないかというご意見です。いかがでしょうか。

例えば3案、10案作っていただいて投票して決定ということではいかがでしょうか。ルールを私が提案させていただいて恐縮ながら、もちろん多数決ではなくご意見を寄せていただくのも選択肢ですけれども、時間も迫っていますので、より多くの委員が響いたものとするということで、申し訳ありませんけれども多数決にて決定させてください。

私は中立的な立場から投票しませんが、同数になったときには、私が一票入れるということでご理解ください。原案づくりは私と長橋委員でまとめさせていただいて、今週中には皆さんにお示しできるようにいたします。

講座の正式名は「広報くさつ」にも多分出ていると思われまので直接的には変えられないでしょう。したがって、表現はデザイン上で工夫いただいて、キャッチコピーで関心を引きつけることにしましょう。

【内田委員】

ちょっと最後に一つよろしいですか。

このキャッチフレーズに関して、私1人が考えるよりも、広く一人でも多くの方で考えてもらいたいってことからフェイスブックで少し呼びかけてみたのですね。たくさんご意見いただいてここ書いてある部分があるのですが、みんなが一貫して言っているのは読書ボランティア人材っていうもので、意味がわからへんということです。

読書ボランティアといっても例えば本の補修をする人とかいろんなタイプのボランティアがあると思うので、これは大体3回という形になっていくのであればこれを変える必要はないと思うのですが、具体的な内容みたいなどころもっとキャッチフレーズにやはり盛り込んでいただかないと具体的に絵本読み聞かせを教える講座だよってところが、もうちょっと前面に出てこないか、何のボランティアか、何も知らない人を見ると、よくわからないっていう、図書館の中で整理したりするのみたいなふうにとちょっと勘違い

される方がほぼ9割の方は意味がわからへんと言われたので、それはちょっと参考にされた方がいいかなと。

【委員長】

先ほど内田委員から案内文・説明文がないというご指摘と重なりますので、「草津市では子ども読書活動推進計画のもとで行われています」などの根拠をお示しいただくなど、簡単な前文を記すなどの対応を事務局の皆さんには検討ください。もしかしたら「広報くさつ」での案内文などをこちらのチラシでも反映いただければということです。

時間に余裕があると思いつつも皆さんから大変多岐にわたるご意見いただきまして、終了予定の時間が近づいて参りました。キャッチコピーについては少し今回の審議を経て継続して検討の余地をいただき、私と副委員長と事務局で原案を出しまして皆さんの投票で決定させていただき、結果は事務局より皆さんにお示しをいただきます。

ということで時間迫って参りましたが最後の資料3、報告書のまとめについて事務局よりご説明ください。こちらが次の第3回委員会での主要な議題になろうかと思われま

【事務局】

資料3をご覧ください。

令和4年、令和5年にこの活動につきまして、最終的に報告書として取りまとめまして、社会教育委員会議から教育長に報告書をご提出いただきたいと思いますと考えてございます。つきましては資料3のように報告書6章立てとしまして、1から6までという章立てを案として出させていただきます。

はじめにから始まりまして、今期取り組み概要、2番目ですね3番目に読書ボランティア人材養成講座を通じた若者のボランティア人材発掘育成、4番にアンケートを5番に考察、6番、終わりにとして委員長の言葉で締めくくるというふうな構成とさせていただきます。

こちらの方ですね、また事務局の方で、ある程度肉付けしたものを委員の皆様にお示しをさせていただいて、ご意見をちょうだいしたいと思っておりますが、たちまち今この第1章から第6章の章立てにつきまして、この通りで進めてよろしいかどうかのご判断、ご検討の方をちょっと短時間にはなると思うのですけれども、ご検討いただけたらなというふうに思っております。以上です。

【委員長】

先ほど第3回会議の主要な議題と申しましたが、その審議にあたっての事務局の皆さんにまとめていただく素案の骨子について、何か抜け漏れ、あるいはこうした点を盛り込んでどうか、ご意見はおありでしょうか。ちなみに昨年度の会議の際、山元委員からは前回の報告書は白黒で印刷したときに項目の判別が難しい、というご指摘いただきました。そのため、白黒でコピーされることを前提とするなら網掛けで表現した方がいいかもしれません。

基本的には私たちがやってきたことをまとめるということで、前年度と今年度の読書ボ

ランティアの講座、あるいは委員会での議論の中で出てきた点について、議事録などをもとに考察に盛り込んでいくことになろうかと思われまます。

ただ、今日出てきたような「読書ボランティア」という言葉だけではわからない部分について、講座を通じて何を指そうとしてきたか、実際どういう方々がどんな活動を展開してこられたか、以前の委員会で玉川小学校の具体的な事例の発表もありましたし、澤村委員たちの活動もご発言の中で紹介いただきました。ですので、個別具体的な事例の紹介だけでなく、多くの方の育ちや学びを支えていく取り組みとして、草津市では読書ボランティアの育成を社会教育の一環で行ってきたとをぜひ広く伝えることができる報告書になればと願っています。詳しくはまた次回になりますので、特段のご異論なければ、まずはこちらでまとめていただき、次回精密にご議論をお願いいたします。

ではまずは骨子をご確認いただきましたので、これで原案をお作りください。そして、次回に報告書のまとめを詰めて参りましょう。

では最後に報告事項です。お手元の資料4を事務局よりご説明願います。

【事務局】

資料の4でございますが、去る9月8日金曜日、「立命館大学びわこ・くさつキャンパス」で、社会教育委員の近畿大会が開催されまして、第3分科会に山口先生が司会として登壇をいただきました。当委員会から2名の委員にもご参加をいただきましたので報告とさせていただきます。近畿各府県から約700名の社会教育関係者が参加され、盛況でございました。来年度は京都府での開催となります。報告事項は以上です。

【委員長】

当日の司会をさせていただいた感想をごく簡単に触れさせていただくと、どの地域でも青少年の定義が揺らいでいる、という印象でした。年齢だけで一括りにすることはできず、多様な生きかたや働きかたについての意見交換が積極的になされました。

また当日の資料をぜひご覧ください。事例の報告では兵庫県で「家に引きこもらないで」という趣旨で30年以上にわたって展開されてきた野外活動の基盤をお示しいただき、少子高齢化やコロナ禍などを経た今、時代の転換点にどのような事業を展開しているかのお話がなされました。前回もこの会議も出ていたVUCAの解説もあります。また、内田委員にはこちらの分科会にもご参加いただきありがとうございます。

では間もなく予定の時間になります。皆さんには本当に積極的なご意見をありがとうございました。一体感、連帯感のもとでよりよい講座となり、そしてそれが草津の幅広い可能性を開くものになること、よりよい未来のために繋がることを願っております。では最後、事務局の皆さんにお戻しいたします。ありがとうございました。

【事務局】

いろいろとご意見をちょうだいいたしましてありがとうございます。

1点だけちょっとお断りさせていただきたい点がございまして、「広報くさつ」なんですけども、すでに原稿を出ささせていただきましたので最終校正が終わっている段階です。

先ほどおっしゃっていただいたのですが、読書ボランティア人材養成講座というタイトルが広報の方に出ていく形で、このチラシでお示しさせていただきました日程の方も、広報で出ていきます。

あと締め切り、申し込み期限が10月20日というところも、広報には掲載をさせていただく形になりますので、ちょっとそういったところを動かさない部分があることをご了解いただきたいなと思います。

またご意見にありました託児の締め切りとか、その辺は再検討して、申し込みのあった場合で柔軟に対応していきたいなというふうに考えております。

以上でございます。

【委員長】

先ほどはコースを横断するというにはA B Cのコースに対する希望というものを第1希望第2希望ないしは第3希望だけにするのか、希望するコースは1つだけとするのか、申し込みする側に混乱がないよう、表記や表現については調整ください。

【事務局】

一旦A B Cでさせていただきますが、ちょっとその辺また、検討させていただきます。

【事務局】

本日議題としておりました案件については、すべて終了いたしました。

活発に御来ご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

今年度の残りの会議につきましても、また後日、日程調整させていただきますが、委員の皆様方には引き続き、またご議論を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。